



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 22 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

虫の声

暑さ寒さも彼岸までとはよく聞く話。我が家の庭は、手入れなど全くしない自然園芸を心掛けているせいか、雑草という名の草花が生い茂り、現在は毎晩、涼しい風に乗ってうるさいほどの虫の大合唱に、秋の訪れを感じているところです。「虫の声」とは秋の季語。草むらで虫たちが秋に鳴く声のことをいいます。他にも「虫時雨」（むししぐれ）（幾重にも虫の声が重なって賑やかな様子）、「虫聞」（むしきき）（虫の鳴き声を賞美するために、秋の夕刻から郊外や野山に出向くこと）などという、なかなか奥ゆかしい季語も有りますね。さて、秋の虫と言えば皆さんご存じの童謡「虫の声」。



色で、頭部は胸の幅より狭く、植物や昆虫の死骸などを食べる雑食性です。飼育する場合は枯れたク

ズの葉っぱをよく食べます。また水分は水苔などを湿らせて入れてあげるのも良いですが、枯れたクズの葉っぱとナスを爪楊枝に刺して入れておいたり、きゅうりなどの野菜でも水分補給になります。雑食性なので、たまにニボシも入れて、タンパク質を取ってもらうのも良いそうです。

『人は寝て 籠の松虫 鳴き出でぬ』 正岡子規

これに対して、スズムシは「リンリン リンリン リー リン」という鳴き声で紹介されて



いますが、実際は「リーンリーン」という非常に涼やかな鳴き声で鳴く昆虫です。そんなスズムシの鳴き方ですが2枚の羽をこすり合わせてこの音を奏でています。鳴くというよりは「鳴らす」と言ったほうがいかかも知れません。ただ実は成虫になりたての時まで、スズムシの羽は4枚あるのです。しかし必要が無いためにその後2枚の羽は抜け落ちてしまうのだそうです。また、スズムシもオスしか鳴きません。この鳴き声は自分の縄張りの主張やメスへのアピールなのです。オスの告白のようなものです。鳴く事でメスに自分をアピール、子孫を残そうとしているわけです。スズムシは雑食性の昆虫です。ナス、キュウリ、サツマイモ、カボチャなどなどの野菜のほか、鯉節、昆虫の死骸など動物質のものも食べます。またタンパク質が足りないとスズムシ同士で「共食い」をしてしまうことがあるため、飼育する際は気をつけなくてははいけません。

『鈴虫を 聴く庭下駄を 揃へあり』 高浜虚子



あれ松虫が鳴いている ちんちろちんちろ ちんちろりん
あれ鈴虫も鳴き出した リんりんりんりん りいりん
秋の夜長を鳴き通す ああおもしろい 虫のこえ

きりきりきりきり きりぎりす
がちゃがちゃ がちゃがちゃ くつわ虫
あとから馬おいおいつて
ちょんちょんちょんちょん すいつちょん
秋の夜長を鳴き通す ああおもしろい 虫のこえ

ここで登場するマツムシは、「チンチロ チンチロ チンチロリン」という鳴き声で紹介されていますが、鳴くのはオスだけで、羽をこすり合わせることで音を出します。その音を使って、メスを誘うなどのコミュニケーションをとっています。体の色は薄い茶